

P2-A-0408

重症有機リン中毒患者における離床開始時期の検討 2 例の経過から

山崎 允¹⁾, 梅田 幸嗣¹⁾, 眞淵 敏¹⁾, 児玉 典彦²⁾, 道免 和久³⁾

¹⁾兵庫医科大学病院リハビリテーション部, ²⁾兵庫医科大学リハビリテーション部,

³⁾兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

key words 有機リン中毒・離床・指標

【目的】有機リン中毒では、体内のアセチルコリンエステラーゼ活性が阻害され、神経シナプスでアセチルコリンが過剰蓄積することで様々な症状が出現する。今回人工呼吸器など長期全身管理を要した重症例を 2 例経験した。中毒症状の重症度の指標として用いられる血清コリンエステラーゼ値 (ChE 値: 正常値 168~470 U/l で低値ほど重症) や臨床症状から離床開始時期について検討したので報告する。

【症例提示】(症例 1) 50 歳代, 女性。自殺企図で農薬 (マラチオン) 摂取。同日当院救急搬送, 搬入時人工呼吸器管理となる。意識障害のため自発的な運動は認めず。(症例 2) 50 歳代, 男性。自殺企図で農薬 (スミチオン) 摂取。2 日後に当院救急搬送。傾眠だったが自発的な運動はみられた。全身状態増悪し, 9 病日人工呼吸器管理となる。

【経過と考察】(症例 1) 呼吸理学療法から開始し, 全身状態改善に伴い 26 病日ヘッドアップ開始。31 病日人工呼吸器完全離脱。35 病日端座位・立位訓練開始。46 病日歩行訓練開始。最終的に病棟内物的介助下での移動が可能となり, 56 病日転院した。(症例 2) 人工呼吸器管理後呼吸理学療法施行。全身状態改善に伴い 25 病日ヘッドアップ開始。37 病日端座位訓練開始。39 病日立位訓練開始。41 病日人工呼吸器完全離脱。46 病日歩行訓練開始。最終的に独歩での移動が可能となり, 65 病日に救急入院終了した。離床開始時期は 2 症例ともに ChE 値がともに改善傾向にあった。受動座位であるヘッドアップ開始日でそれぞれ正常値下限の 76% と 42% で, 自動座位である端座位訓練開始日ではそれぞれ 80% と 102% だった。先行報告で強い疲労なく運動負荷が可能となった時期の ChE 値は正常値下限の 70% 超だったとあるが, 概ね今回の 2 例の自動座位開始時も同様だった。離床開始にあたり全身状態改善が最重要だが, 経過のなかで臨床症状とともに ChE 値の変化を追うことは必要だと考える。